



# 白鳳点描

## この夏を振り返って

校長 水野 夏子

暑い暑い夏休みの間、いかがお過ごしでしたでしょうか。テレビのニュースでは、連日の猛暑や最高気温更新、一方では豪雨災害、そして、クマの出没と人的被害の話題が多かったように思います。作物の生育にも影響が大きく、お米の値段もどうなるのか先行き不透明なことが増えました。

私は、この夏休み期間中に、他地域で中学の社会科教員をしている同級生と会う機会がありました。その同級生が「この前、テストに8月15日のことを出したのだけれど、終戦記念日と知らない生徒が多かったことにショックを受けた」と話し始めました。その場にいた者全員が「ええっ」と声を上げたほどびっくりした話題でした。今年は戦後80年の節目の年でもあり、考えさせられる出来事でした。

私の母は、2歳の時に名古屋の空襲を経験しました。焼夷弾によって近所にはあちこちと火の手が上がっている中、父親と上の兄が家財道具を取りに家に戻ったこと、次男で小学生の下の兄が2歳の母を背負って鶴舞公園へ走って逃げたこと、灰や火の粉が目に入って痛くて目が開けられなかったこと、数日の間、家族とはぐれてしまい二人きりで過ごしたこと、知らない人におにぎりもらったことなど、子どもの頃に何度も話を聞いていました。だから、母は高畑勲監督の映画「火垂るの墓」は、当時のことが生々しく思い出されるために見られないと言っていました。ところが、この夏テレビで放映されたこの映画を母はじっと動かさず無言で見っていました。何を思いながら見ていたのかは想像できません。ただただ母の横顔を見つめているばかりでした。映画が終わると、母はぽつりと「今まで思っていたことと違ってた」とつぶやきました。何が違っていただろう、どうして今年は映画を見ることができたのだろう。この夏の印象深い出来事の一つとなりました。

映画も出来事も、時代や世代、個人の中でもその時々で捉え方や感じ方が変わってきます。家族で同じニュースを見ても、意見が違うことは十分ありうることです。しかし、その違いこそ多様な価値観に触れ、立場の違う他者の考えを知る良い機会です。ご家族でそんな機会があったならば、それは喜ばしいことです。子どもたちが、これから出会う事柄に対して、または、過去の出来事に対して、ふと立ち止まって考えたり自分のことを振り返ったりすることに、きっと役立つことでしょう。学校生活でも、そんな場面がいくつもちりばめられています。子どもたちの成長の糧となることを願ってやみません。

9月に入っても暑い日々が続きます。十分な睡眠時間の確保と栄養のある食事、水筒を持たせていただくなど、ご家庭のご協力が欠かせません。どうぞ、よろしく願いいたします。

